

食に関わるものづくりを函館の新たな産業資源に。



株式会社 タイヨー 製作所

0・7

地元密着の技術を応用して 多方面へ販路を拡大。

地元・函館で培った水産加工技術を武器に、道外や海外にも販路を拡大。さらに水産加工の一環である温度制御技術を応用して食品加熱調理機を開発し、今まで取引のなかった業務用食品や病院給食などの新たな需要を生み出しました。

株式会社 タイヨー 製作所

本社 北斗市清水川226-10
TEL 0138-77-1001
URL <http://www.taiyo-seisakusho.co.jp/>
主要事業 1967年創業。水産加工機械の開発をメインに、道内外から海外まで販路を広げている。第3回ものづくり日本大賞ものづくり地域貢献賞、北海道新技術新製品開発賞・ものづくり部門大賞、日本缶詰協会技術賞を受賞。

代表取締役社長 丸山 量



地元密着の水産加工機械メーカーとして

函館市のベッドタウンとして近年人口が増えつつある北斗市。この町に拠点を置くタイヨー製作所もまた、函館とともに歩んできた企業である。1967年、函館名産のイカをスルメに加工するための熱風乾燥機メーカーとして出発。やがて加工業者のニーズに応じて塩辛用のカッターや皮むき機、くんせいなどの珍味加工用機械、さらにホタテやタラ、ニシン、ホッケなどイカ以外の水産物の加工機械の開発も進めてきた。

水産物の加工において出来を左右するのが温度管理である。イカのように水分の多いものは熱風乾燥が適しているが、温度が高すぎると変色してしまうため、45℃を超えてはいけない。逆にニシンや鮭など脂の多いものは温度が高いと酸化して品質が落ちてしまうため、25℃以下の冷風乾燥が適している。こうしたきめ細かな温度調整に配慮した加工機械の提案により、タイヨー製作所は地域に根ざした水産加工機械メーカーとしての地位を築いていった。

海外需要に応えることで地元の雇用促進を

とはいえ、漁獲時期や漁獲高に限られていた地元の水産物だけでは、将来的な事業拡大は難しい。数々の漁港が並ぶ三陸沿岸を、丸山社長をはじめ社員自らの足で回って売りに奔走した時期もあった。こうした地道

な努力が実り、タイヨー製作所は東北から関東、九州、沖縄まで全国各地に顧客を持つまでに成長。さらに丸山社長は海外にも目を向け始める。「函館は、日露戦争以前から北洋漁業基地としてロシア極東地域と連携してきた基盤がある。日本の遠洋漁業が縮小傾向にある今こそ、極東の水産資源をプラス要素として活かすべきと考え、30年ほど前からロシア極東地域の漁業関係者とのパイプ作りを進めてきました。」極東地域の主要水産物である鮭の皮すきから裁割、魚卵分離、メフン除去などの工程を担う加工プラントを提案。現在はロシアのほか北米やチリなどの鮭漁獲地にも広く加工機械を輸出しているほか、韓国や台湾、中国などにも販路を拓いている。

早期からグローバルな販路開拓を進めてきた丸山社長。その胸の内には、地元・函館の水産関連産業に対する強い危機感がある。「原油高騰や国別保有船数の割当開始など、日本の遠洋漁業を取り巻く状況は厳しくなる一方。水産加工機械の国内需要もピーク時の40%以下まで下落した上、雇用も減って漁業・水産関係者の高齢化が進んでいる。このままでは水産業から造船業まで軒並み衰退してしまいます。そうさせないためにも加工機械の海外需要を掘り起こし、開発や製造に伴う雇用創出につなげたい、と考えています。」

新たな食品加工技術で地域に貢献したい

地元の雇用拡大を見据え、丸山社長はもう

ひとつの新たな挑戦を始めている。食品メーカーや研究機関との連携のもと、水産加工で培った温度制御などのノウハウを活かして開発した食品加熱調理機「アクアクッカー」である。アクアクッカーは115℃の水蒸気と100℃以上の微細水滴を混合した過熱水蒸気（アクアガス）を利用した調理器で、短時間で食品を加熱することにより、食感や栄養価を保ちながら殺菌を行うことができる。「生野菜の殺菌や農畜産物の加工などで実績を上げ、業務用食品製造や病院給食などの現場で採用していただいています。サンマやサバの骨までやわらかく調理できるので、水産加工品の市場拡大にも期待したいですね。」と丸山社長。「第3回ものづくり日本大賞ものづくり地域貢献賞」「北海道新技術新製品開発賞・ものづくり部門大賞」「日本缶詰協会技術賞」を受賞し、すでに全国各地に20台以上を納めている。「当社の取り組みが食品加工の可能性を広げるとともに、ものづくりに関わる人材の雇用創出につながれば、水産関連産業が下降傾向にある函館にとって、若者の雇用機会の創出は急務です。従来の観光資源だけに頼るのではなく、安定した産業資源を新たに創っていかねばなりません。当社が培ってきた水産加工の技術を基盤としたものづくりを通して、地域に貢献したい—海とともに生きてきた男のロマンかもしれません。」と丸山社長は笑う。座右の言「奮闘若不老（奮闘は不老のごとし）」そのままに、函館を想う心はいつまでも老いることはない。